

卒業式式辞

「木は欣欣として以て榮ゆるに向かい、泉は涓涓として始めて流る」

中国の詩人陶淵明は、長い冬を終え、漸く訪れた春の喜びを『帰去来辞』でこのように詠っています。自然の営みは実に確かで、校庭の木々も生命（いのち）の兆しを内に抱き、窓越しに差し込む光も、時折はっと思うほどに柔らかく、春がすぐそこまで来ていることを予感させます。

本日は、錦上に花を添えていただきました多数のご来賓の方々、保護者の皆様のご臨席を賜り、このように盛大かつ厳粛に本校第七十二回卒業証書授与式を挙行できますことを心から感謝いたしますとともに厚くお礼申し上げます。

七十二回生の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。ただ今卒業証書を授与いたしました三四六名の皆さんに、本校教職員を代表して、心からお祝いを申し上げます。

皆さんにとって本校三年間の一番の思い出は何でしょうか。勉学、部活動、学校行事、中には講堂や制服、教室から見える明石海峡大橋の眺望、学年通信「燦（きらめき）」を挙げる人もいるでしょう。この「燦」には本校での学びを礎に、将来地域のリーダー、日本のリーダー、世界のリーダーとして大きく羽ばたき、輝いてほしいという春澤裕二郎学年主任を始め、学年団の先生方の熱い思いが込められています。その期待に応えるかのように、皆さんは濃密で充実した時間を過ごし、大きく逞しく成長しました。飾らず直裁的に思いを伝える春澤節に感化され、何事にも粘り強く全力で取り組んできた皆さんの澁刺としてまばゆいばかりに輝いたその姿は、確と私の目に焼き付いています。

さて、近年、「世界はVUCA（ブーカ）ワールドとなった」と言われます。「VUCA」と書いて「ブーカ」と読みます。Volatility（ボラティリティ）＝変動性、Uncertainty（アンサーティンティ）＝不確実性、Complexity（コンプレキシティ）＝複雑性、Ambiguity（アンビグイティ）＝曖昧性、これらの頭文字を並べた造語が「VUCA」＝「ブーカ」です。これらの言葉が象徴するかのように、イギリスのEU離脱や、トランプ氏のアメリカ大統領就任など、既成の枠組みに対する民衆の危機感や不安が一つの形となってポピュリズムが台頭し、国際政治は流動化を増すばかりです。また、社会は「狩猟」「農耕」「工業」「情報」に続く、第5世代の「ソサエティー5.0」と言われる技術革新の時代に向かっています。それが証拠に、グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾン、マイクロソフト、これらの頭文字を並べた「GAFAM」＝「ガファム」といった、数十年前には予想だにできなかった新たな職域を持つ企業が世界中を席卷しています。一方で、地球温暖化を背景とする甚大なメガ災害は、毎年規模を増大させながら次々と容赦なく襲ってきます。

このように、先を予測することが非常に困難で、不安定・不確実・不透明な状況にあっても、自分の拠って立つ基軸を見失うことなく、しっかりと地に足を据えて生き抜いてほしいと思います。その意味において、今後特に大切にしてほしい三つの基軸を皆さんに伝えて餞別にしたいと思います。

一点目は、生きる上でのしっかりとした目標と強い意志を持ち続けてほしいということです。

「諦めない力と忍耐力があれば、どんな困難をも打ち破り、どんな障害物をも消し去る

ほどの魔法のような力が湧いてくる」と言ったのは、アメリカ第六代大統領ジョン・クインシー・アダムズです。目標を達成するための絶対条件は諦めない強い意志だ、と言いたいのだと思います。やり遂げたい目標を持っている人には、必ずと言っていいほど、次々と苦難が立ちはだかるものです。そんな時こそ、具体的な行動目標を設定し、自分の座標軸をしっかりと見据え、不退転の意志を持って、挫けず倦(う)まず努力を続けてほしいと思います。「今を生きる」とは強い意志を持つこと、決して尽きることのない燃えたぎるような情熱を忘れないことだと肝に銘じてください。

二点目は、挑戦する勇気を持ち続けてほしいということです。

人には無限の可能性と創造力があると言われる。それを伸ばすには、無論、知識や経験、環境などさまざまな条件が必要ですが、何よりその大前提となるのは、行動力です。遺伝子を使った医療技術の実用化が期待される中で、妻であり、母でありながらも、研究に勤しみ、働く女性という環境に身を置いて、世界初の遺伝子解析用DNAコンピュータの試作機を完成させた唐木幸子さんは、その著書の中で、「やりたいことが明確ならば、本気になって挑戦する勇気さえあれば、できない環境ぐらい、必ず打破できる」と語っています。挑戦する勇気を持ち続け、自らの道を自らの力で切り拓いていってください。

三点目は、感謝の気持ちを持ち続けてほしいということです。

時に厳しく諭し、時に温かく見守ってくださった先生方、三年間ここ明高で同じ時空を共有し、悲しみは半分に、喜びは何倍にもしてくれたかけがえのない七十二回生の仲間、いつも大きな愛情で包み、陰から支え応援してくださった家族、そして多くのご支援をいただいたPTA、同窓会、明石市を始めとする地域の方々。皆さんが今日、卒業の日を迎えることができたのは、もちろん、皆さんの弛まぬ努力によるのですが、その裏にはこうした多くの方々の励ましやご支援があったからこそです。「感謝の気持ちは幸福の安全弁」と言ったのは松下幸之助氏ですが、感謝の気持ちを忘れることなく、心豊かに生きてください。

保護者の皆様に、この場を借りまして一言申し上げます。皆様の大切なお子様をお預かりし、教職員一丸となって全力で取り組んで参りましたが、本校の教育方針をご理解いただき、ご協力賜りましたことに心からお礼申し上げます。また、お子様を大切にはぐくみ育ててこられた皆様方には、この十八年間、言葉には尽くせぬほどのご苦勞があったこと、また春から親元を離れていくことに一抹の不安と大きな寂しさを感じておられることと推察いたしますが、今日この日を迎えられ、心からお慶びとお祝いを申し上げます。今後とも引き続き、本校に対して変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、縁あってこの明高の学び舎に集い、ともに育んだ建学の精神「自彊不息」、校訓「自治・協同・創造」の気概、そして校歌にある「集え・競え・誓え」の気炎。これらを深く胸に刻んで、卒業生の皆さん一人ひとりの活躍が母校の喜びや励みになることを、そして七十二回生全員の力になることを決して忘れず、命を大切に、自信と誇りをもって、悔いのないすばらしい人生を歩んでいかれることを祈念しています。

行くなれと とどまる我と 春二つ

卒業生の皆さんに限りない惜別の思いを残しつつ、その洋々たる前途祝して、式辞といたします。